

テーマ2 子どもの安全の確保について

〔提案理由〕

- ・大分県の刑法犯認知件数は、平成15年をピークに5年連続して減少し、昨年は9,840件と昭和52年以来、31年ぶりに1万件以下となり、指数治安は改善傾向にある。
- ・しかし、凶悪犯罪の前兆となる子どもへの声かけ事案の発生は、過去5年間毎年100件を超えており、子どもの安全の確保に向けた対策は、重要な課題である。
- ・大分県中期行財政運営ビジョンの中で掲げている「子育て満足度日本一を目指す大分県」の根本は「子どもの安全」確保であることから、効果的な施策について意見をいただきたい。

〔県民の声〕

「治安に関する県民アンケート」（平成21年2月）結果から

- ・「子どもを犯罪から守るために、今後より力を入れるべき対策は何だと思いますか」
 - 警察による通学路や学校周辺のパトロール強化（第1位 61.0%）
 - 警察と学校の連携による声かけ事案等の防犯対策（第2位 55.4%）
 - 地域の犯罪発生状況や不審者情報等の提供（第3位 54.2%）
- ・「安全で安心な地域社会を実現するための地域の取組みとして、どのようなものが効果的だと考えますか」
 - 街路灯の設置や公園の見通しなどの整備（第1位 71.0%）
 - 防犯カメラの設置（第2位 49.9%）

〔議論のポイント〕

（1）地域の中で子どもの安全について感じている点と県に求める対策について

（2）環境や施設面での子どもの安全対策について

（3）犯罪や防犯情報の提供内容とその方法について

（4）既存の自主防犯ボランティアとの協働による安全対策について

〔議事概要〕

（県に求める子どもの安全対策について）

- ・PTAの自主防犯という形で見回っているが、母親や年配の方が1人で行うこともあり、本当に何か起きたときにどうすればよいか不安。警察の制服やパトカーは、そこにいるというだけで抑止の力を持っている。声かけ事案がもっとも多く発生する時間は午後3～4時であり、この時間帯に制服の警察官と一緒に回っていただきたい。
- ・学校の先生も子どもが（顔を知っており）安心するので、先生にも見回りに同行するなどの協力をお願いしたい。

（地域での取組について）

- ・地域住民がどう関わるかが重要。京都市ではお年寄りの散歩の時間やお店の前の掃除

を、子どもの登下校の時間に合わせることで、子どもの安全を確保する取組をしている。参考になるのでは。

- ・地域の活性化が必要。今はどこの子どもか分からないこともある。子どもとのふれあいが少ない地域が多いので、子どもも含めた地域づくりをすることから始めれば、地域全体の目で子どもを見守ることになる。
- ・ある時だけキャンペーン的に安全パトロール等を行うのではなく、地域における地道で継続した活動が重要。

(情報提供について)

- ・「まもメール」という、不審者情報や振込め詐欺などの事件が起きたとき、携帯にメールを配信するシステムがあるが、まだPRが足りないのではないか。

(防犯対策について)

- ・子どもを犯罪の加害者にしないための対策や学校教育が重要。
- ・十代の子どもは被害者にも加害者にもなっている。まず家庭内で犯罪についてしっかりと話し合っておくことが重要。最近はインターネットのトラブルに子どもが巻き込まれる事案が増えている。
- ・子どもが気安く犯罪の加害者とならないよう、自転車泥棒に対する二重ロックの推進など、犯罪をさせない環境づくりもしっかり行う必要がある。
- ・児童虐待への対策も重要な課題。周囲が関心を持つ必要がある。

(その他)

- ・最近、先生の運転するバスが横転し、生徒が亡くなるという事故が起きた。クラブ活動では先生や保護者などがバスを運転し、子どもを運ぶことが日常茶飯事になっている。このような事故は2度とあってはならない。

テーマ3 その他

[議事概要]

(7/8新聞での県の施策の紹介特集について)

- ・近所での話題にもなり、非常によい取組。
- ・他の新聞チラシと一緒にあって気づかれない恐れがある。配布の仕方を考えた方が良いのでは。

(TVの活用について)

- ・インターネットなどの情報ツールも一般的になっているが、TVの影響力は依然大きい。もっとTVを活用して大分県の情報発信を行うべき。

(子育て日本一について)

- ・子育て日本一を掲げているが、男性の育児参加を真剣に考える必要がある。若い母親は子育てについて教えられていないことが多い。子育て支援の一環で上の世代と若いお母さんのサークルをつくり、相談できる体制を整えたらどうか。
- ・この手の取組は公務員の方が行いやすい。県庁舎のエコ診断をするように県職員の子育て診断を行ってみてはどうか。